





大たいまつに火をともし参加者 藤枝市岡部町殿

藤枝・岡部で民俗行事「虫送り」

大たいまつに火移し 豊作祈願

藤枝市岡部町殿で23日夜、ウンカやカメムシなど農業害虫の駆除と供養を通して豊かな実りを祈願する民俗行事「虫送り」が行われた。地元の見物など300人ほどが、約1キロに渡り設置した大たいまつに火をともしながら農道を笑顔で歩いた。

市によると、県内に残る唯一の虫送りという。同地域でも農業の普及などでいったんは途絶えたが、地元有志が1980年代に地域おこしの一環として復活させた。晩夏の風物詩として市民に親しまれている。

辺りが薄暗くなった夕刻、隊列を組んだ参加者が着火用のたいまつを手に出発。鐘の音に合わせて「田の虫おーくーれー」と、声を上げながら水田沿いの大たいまつ117本に火を移すと、田園に幻想的な光景が浮かび上がった。その後、総善寺前で子供養の読経が行われた。

記事を読んで、問いに答えましょう。

- ①この民俗行事を何と呼んでいますか。  
( **虫送り** )
- ②大たいまつに火を移すとき、どんな声を上げますか。  
( **「田の虫おーくーれー」** )
- ③この行事にはどんな願いがこめられていますか。  
(例)  
・ **(ウンカやカメムシなど農業害虫の駆除と供養を通じた) 豊かな実りへの願い。**
- ④このような行事を長く続けていくためには、どんなことが大切だと思いますか。あなたの考えを30字以内で書きましょう(句読点も字数に含まれます)。  
(例)  
・ **地域おこしの一環として、楽しみながら盛り上げていくこと。(28字)**  
・ **子どもたちが行事の意義を学び、中心になって活動すること。(28字) など**